

第 12 回技術情報検討会議事概要

1. 日 時:平成27年1月19日(月) 10:00~11:45

2. 場 所:原子力規制委員会13階 会議室 B

3. 出席者:

原子力規制委員会

更田委員

原子力規制庁

平野技術総括審議官、竹内原子力安全技術総括官、櫻田規制部長、大村審議官、山田審議官、佐藤原子力規制企画課長、山形安全規制管理官(PWR)、澤田安全規制管理官(発電炉検査)、黒村安全規制管理官(新型炉・試験研究炉・廃止措置)、前川安全規制管理官(廃棄物・貯蔵・輸送)、小林安全技術管理官(システム安全)、梶本安全技術管理官(シビアアクシデント)、内田安全技術管理官(核燃料廃棄物)、高松安全技術管理官(地震・津波)、武山事故対処室長、三浦火災対策室長、二宮品質管理専門官(廃棄物・貯蔵・輸送)、河合管理官補佐(再処理・加工・使用)、阿波安全審査官(PWR)

事務局

石井企画官、小林課長補佐、有吉課長補佐、伊藤専門職

日本原子力研究開発機構

渡邊規制情報分析室長

4. 議題: (1)技術情報の検討について
(2)その他

5. 議事要旨

(1)事務局より、議題(1)「技術情報の検討について」について、資料の順に従って説明した。

○事務局より、「第11回技術情報検討会議事概要」(資料12-1)、「スクリーニングと要対応技術情報の状況」(資料12-2)、「2次スクリーニングの検討状況」(資料12-3)及び「要対応情報とするために更なる調査を必要とする案件」(資料12-4)について説明があり、了解された。

○「回路の故障が2次火災又は設備の損傷を誘発させる可能性」について(資料12-5)

・我が国では、系統分離の徹底を求めているため、火災影響による炉停止機能及び崩壊熱除去機能の喪失の可能性は非常に低いと思われる。しかし、更に高度なレベルで火災による回路故障の影響を確認することについて、その要否を含めて検討することとし、本件は、要対応技術情報とする。

○「400KV 外部電源における2相開放後の EDG の起動失敗」について(資料12-6)

・我が国では、昨年、設置許可基準解釈等の変更を行い1相開放事象の検知を要求しており、2相開放状態も1相開放状態に含まれるため、直ちに規制に反映すべき事項はなく、本件は2次スクリーニングで検討終了とする。

○事務局より、「要対応技術情報リスト(累積)」(資料12-7)について説明し、了解を得た。

・「空気と水の相互作用による消火系配管内部での腐食」について

加工施設及び大規模施設を有するJAEAの試験研究炉、使用施設については調査終了し、予作動式スプリンクラーは設置されていないことを確認した。残りは、小規模・多数の試験研究炉及び使用施設であることから、今後の審査の中で確認・注意喚起を促すものとし、本件対応終了とする。

○事務局より、「国内トラブル情報」(資料12-8)について説明し、了解を得た。

(2)その他

○次回技術情報検討会は、平成27年3月2日を予定とする。

○「要対応情報とするために更なる調査を必要とする案件」と、「要対応技術情報リスト(累積)」に載っている案件に関して、進捗状況を確認し、処理の遅れているものに対しては、適切に対応していくよう指示があった。

○「1次スクリーニング結果」(参考資料12-1)のうち、「圧縮空気の生成システム及び分配システムにおけるアルミナの存在」については、国内プラントで使用されているアルミナ粒の使用状況等について、再度調査・検討を行うよう指示があった。

以上